

平成 21 年 9 月 3 日 (木) 11:45~12:30

済美小学校 弦楽器のアウトリーチを実施

対象: 6 年生 106 名

場所: 多目的室

講師: 徳岡裕紀 (ヴァイオリン)、鈴木洋子 (ヴァイオリン)、多田素子 (ヴィオラ)
渡部良 (チェロ)

内容 (概要)

チャリティオーケストラコンサートの趣旨説明 (なら 100 年会館)

なら 100 年会館で 10 月 10 日のチャリティオーケストラのコンサートは、「火と水の祭典」がテーマです。チケットの収益金を全額、みんなの知っている世界遺産の大仏さんのお寺、東大寺にある 1300 年続いている道の景観保全のために使うことを説明しました。

1300 年前から続いていた道を 1300 年後に続けるための、音楽によるチャリティ活動。多くの方に理解していただき、おうちの人たちとコンサートへ来ていただきたいことを説明しました。

エルガー: 愛のあいさつ 演奏

イギリスの作曲家エルガーは、大好きな女性に出会った時の幸せな気持ちをこの曲で表現しました。みなさんにも幸せな気持ちが届くでしょうか?

楽器紹介 (簡単な演奏を交えながら)

ヴァイオリンのこの形は、今から 400~500 年くらいまえにできました。表は松、横と裏は楓です。ではどうしてこんな箱の形なのでしょう?そして、こん柱や駒など楽器の仕組み、180 本ほどの馬のしっぽの毛でできている弓、そして弦をはじくピチカートなどの演奏法を教えてくださいました。



ハイドン: セレナーデ 演奏

最近の研究では、これはハイドンの作曲ではないかも?という説もでてきた曲だそうです。

ヴァイオリン体験 (3 名程度)

初めてヴァイオリンを見たり聞いたりしたという児童がたくさんいました。1 組

から3組まで、それぞれのクラスから1人ずつ、実際に演奏してもらいました。なんと、弦楽四重奏とともに、「しあわせなら手をたたこう」を演奏したのですよ。



みんなで歌おう～となりのトトロ～
次は弦楽四重奏の伴奏で、「となりのトトロ」を全員で歌いました。歌いながらもみんなの視線は、弦楽四重奏へ。



モーツァルト：アイネ・クライネ・ナハトムジークより第1楽章 演奏
二人の児童が、指揮に挑戦。ゆっくり振るとゆっくり。速くふると速くなることに少し戸惑ったようですが、それが生演奏の素晴らしさ。それぞれの個性を感じさせる指揮でした。



平成 21 年 9 月 3 日 (木) 14 : 05 ~ 14 : 50

済美小学校 打楽器のアウトリーチを実施

対象 : 3 年生 95 名

場所 : 多目的室

講師 : 齊藤盛章 (パーカッション)、エリック・パキラ (パーカッション)

内容 (概要)

チャリティオーケストラコンサートの趣旨説明 (なら 100 年会館)

打楽器とはどんなイメージ?

打楽器といえば、どんなものだと思いますか? 「大太鼓」、「小太鼓」、「マリンバ」、「叩けるもの全部」など、いろんなイメージが浮かびます。

言葉を使ったリズム遊び

エリックさんは、「アメリカ」の「ボストン」出身。「ハローイングリッシュ」の授業を受けている子どもたちは、英語が大好き。みんな「ハロー」と楽しそうに話しかけていました。それらの言葉にあわせてリズムをたたいたり、足踏みをしたり。少しずつリズムは難しくなり、最後には、足踏みをしながら難しいリズムも叩けるようになりました。音楽の中のリズムと言葉のリズム。とっても関係が深いことを教えていただきました。

いろんな打楽器の実演、演奏、説明

サンバのリズムに使うアゴゴベル、サンバホイッスル、クイカ、そしてフィンガースィンバル、ワイヤーブラシやおもしろいスティックなど。はじめて見たり、きいたりする楽器もたくさんありました。



打楽器演奏「調和」

済美小学校の児童のみなさんのために、齊藤さんが曲を作曲されました。曲名は「調和」。聴いている人も、演奏している人もみんながひとつになればという思いから、この曲を作曲されたそうです。大きな和太鼓と、小さな小太鼓を使った演奏です。日本のリズムをたくさん盛り込まれた曲の素晴らしさと、テクニックのすごさに、参加者は驚きました。児童からは「楽譜は五線譜に書かれているの?」と専門的な質問が。「リズムだけのものは五線譜には書きませんが、木琴など旋律のあるものは五線譜に書きます。」



みんなと歌おう となりのトトロより「さんぽ」

エリックさんのマリンバと音楽の平方先生のピアノにあわせて、全員で「さんぽ」を歌いました。はじめに習った「アメリカ」「ボストン」のリズムも叩きながら挑戦しました。



平成 21 年 9 月 3 日 (木) 14:55 ~ 15:40

小学校 5 年生 89 名を対象とした管楽器のアウトリーチを実施

場所：多目的室

講師：沼田陽一（フルート）、朝倉祥古（オボエ）、永武靖子（サックス）、滝沢誠友（クラリネット）、河津伸子（ファゴット）

内容（概要）

チャリティオーケストラコンサートの趣旨説明（なら 100 年会館）



ハイドン：ディベルティメントより第 1 楽章 演奏

今年はハイドンの没後 200 年という記念の年。木管の響きで、楽しんで聞いてみてください。みんな、珍しい楽器の生演奏に、真剣に聞き入っています。

楽器紹介

フルート

今は金属でできていますが、昔は木でできていました。だから木管の仲間です。瓶を使いながら、楽器のなる原理を説明していただきました。



オーボエ

日本の楽器では箏箏と同じ仲間。鳴らすことがとても難しい楽器です。フランスで洗練された楽器です。



クラリネット

オーボエとは姿は似ていますが、歌口が違って、1枚リードの楽器です。

ファゴット

オーボエと同じリードの構造で音がでます。長い楽器で、全部伸ばすとなんと3メートル近くになります。長い楽器ほど、低い音がでます。ファゴットはイタリア語で「薪の束」という意味だそうです。

ホルン

金管楽器ですが、やさしい音色なので、木管楽器ともよく一緒に演奏します。

メロディと和音～ハイドン：ディベルティメントより第2楽章 演奏～

音楽の3要素はメロディ、リズム、ハーモニー。それらの魅力を味わいながら、いろんな音楽の楽しみ方があるということを教わりました。



リズムとメロディ～アゲイ：5つのやさしいダンス 演奏～

2つのグループに分かれてリズム打ちを練習。五重奏の皆さんと一緒にリズムでアンサンブルを楽しみました。お互いの音を聞きながらの演奏は難しかったけれど、楽しみ方も実感できます。



みんなと歌おう となりのトトロより「さんぽ」

済美小学校での先生方の感想

- ・弦楽器は内容的にはオーソドックス。でも6年生はあまり反応がよくなかった。（おとなしすぎる学年で。）
- ・3年生は、自由に楽器がさわれる時間もあってもよかった。（楽器の紹介の時間を短して。）コンガや太鼓を組み合わせでの演奏やスネアのトレモロなど、プロの技も聴いたり、見たりしてみたかった。
- ・5年生は、滅多に生演奏でいくことができない楽器をCDではなく、聴くことができよかった。生演奏には奥行きと広がりがあり、こどもたちの感性にも響くものがあったと思う。またこどもたちの様子を見ていても、意外と理解をして音楽をきいているという雰囲気が感じられた。
- ・弦楽器はやはり体験コーナーがよかった。楽器に触れるのはうれしい。その点でも、打楽器も触らせてほしかった。
- ・打楽器は知っている曲でもテクニックを披露してほしかった。
- ・管楽器は少し曲が難しかった。でも、手拍子とのアンサンブルは興味深かった。